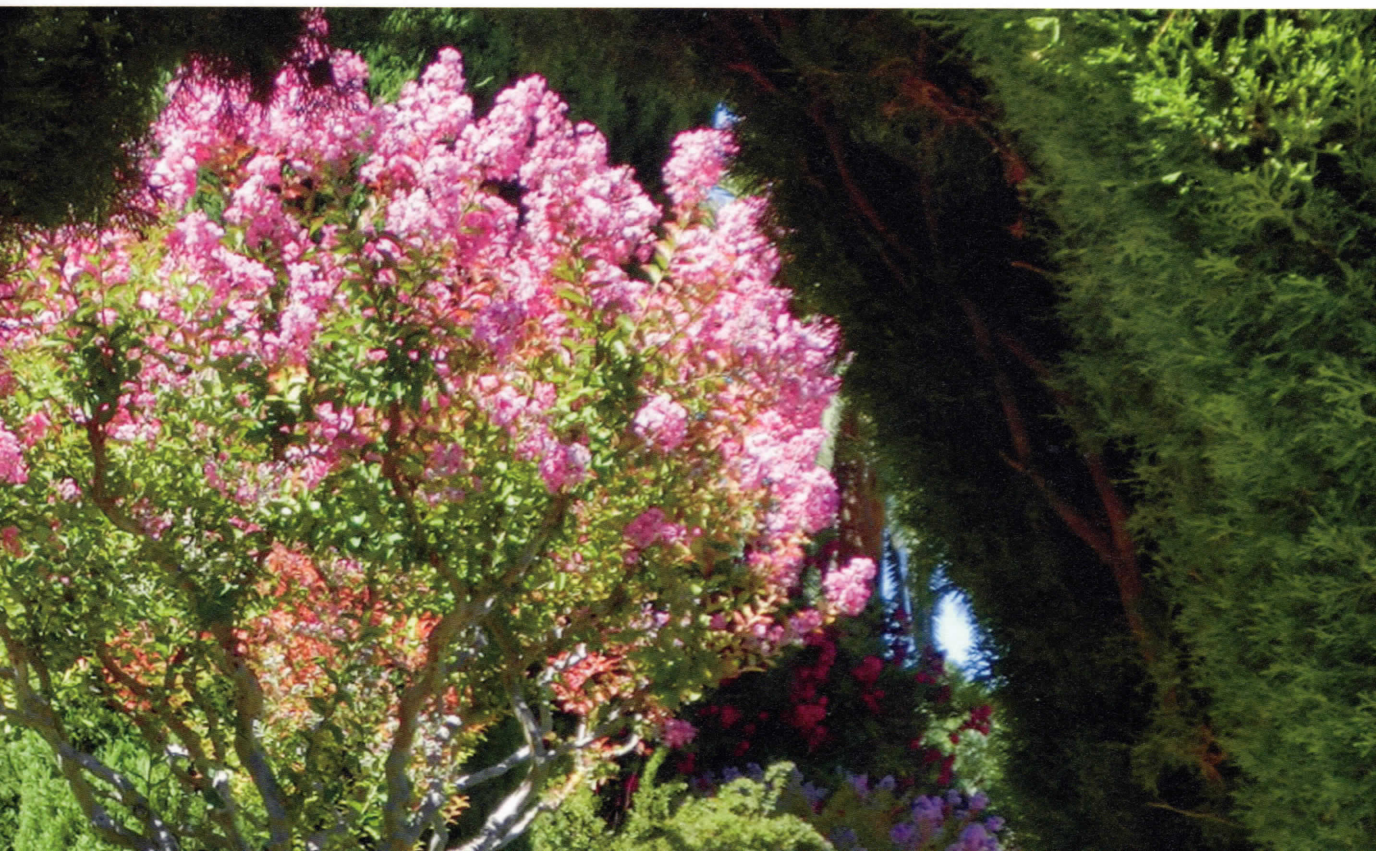


# 早春の会合唱団 第7回演奏会

2016.7.23(土) 13:30 開演  
めぐろパーシモンホール 大ホール



## 演奏会に寄せて

顧問 織田久男

2014年の創立20周年コンサートから2年、また定演の季節がやってまいりました。世の中の動きはこの間も何かと目まぐるしく、この4月の熊本大地震では、東日本大地震の際に続いてまたもや「早春の会」会員が被災しました。津波や原発事故による放射能汚染が無かったのが不幸中の幸いでした。物心ともに、はやい復興を祈願します。残念なことに、この2年のうちに三人の会員が私よりも先に鬼籍に入ってしまった。何ともつらく悲しい出来事です…。

そして合唱団員は全員が還暦を過ぎてしまい、正真正銘の『老人合唱団』になりました!こんな風に言うと忽ち怨嗟と抗議のブーイングがまき起りそうなので慌てて付け加えますが、ご覧のとおり団員の皆さんはまだまだ若々しく元気潑刺としています。私などいつも感心しています。さて今日はどんな合唱を聴かせるのでしょうか。私も楽しみにしています。精一杯の楽しい演奏を期待します。

御来聴の皆さま、本日はご多忙のところを私たちの演奏会にお運びいただきましてまことに有難うございました。厚く御礼申し上げます。

## ご挨拶

団長 平部正和

本日は暑い季節にもかかわらず私たちのコンサートにお越しいただき誠にありがとうございます。前回の演奏会から2年余りが経ち、ほぼ全員が還暦を過ぎました。そろそろ練習の負担の少ない曲を、というのが自然の流れですが結局フォーレの「レクイエム」、木下牧子氏の「方舟」などの大曲難曲への挑戦となり、体力を気力で補い練習を重ねて参りました。プログラム後半には一昨年12月に亡くなられた合唱団の育ての親とも言えるべき初代指揮者の松田匡史さんを追悼する曲「落葉松」「花に寄せて」を演奏いたします。プログラム最後のヨハン・シュトラウスの「皇帝円舞曲」は編曲、日本語歌詞とも指揮者の玉置さんによるもので今回の演奏会が初演となります。

最後になりましたが、いつも私たちの合唱活動を支えて下さっている合唱団員のご家族の皆様に深く感謝申し上げます。ではどうぞごゆっくりとお楽しみ下さい。

## Program

---

レクイエム

ガブリエル・フォーレ 作曲

I-INTROITUS・KYRIE 第1曲<入祭唱とキリエ>

指揮 玉置清明

II-OFFERTORIUM 第2曲<奉献唱>

ピアノ 米倉邦子

III-SANCTUS 第3曲<サンクトゥス>

ソプラノ 村上紀子

IV-PIE JESU 第4曲<ピエ・イエズ>

バリトン 平部正和

V-AGNUS DEI 第5曲<アニユス・デイ>

VI-LIBERA ME 第6曲<リベラ・メ>

VII-IN PARADISUM 第7曲<天国にて>

— 休 息 —

混声合唱組曲 「方舟」

木下牧子 作曲 大岡 信 作詩

I-水底吹笛 (すいていすいてき)

指揮 玉置清明

II-木馬

ピアノ 仲谷智子

III-夏のおもひに

IV-方舟 (はこぶね)

指揮 安藤由布樹 ピアノ 米倉邦子

夢路より

S.C.フォスター 作曲

月の沙漠

佐々木すぐる 作曲

懐かしのケンタッキーの我が家

S.C.フォスター 作曲

指揮 玉置清明 ピアノ 仲谷智子

混声合唱とピアノのための「花に寄せて」より

新実徳英 作曲

たんぽぽ

星野富弘 作詩

つばき・やぶかんぞう・あさがお

落葉松

小林秀雄 作曲

野上 彰 詩

皇帝円舞曲<手に手をとって>

J.Schtrauss II 作曲  
玉置清明 作詞・編曲

玉置清明

### 『レクイエム』

フォーレは、サン＝サーンスの弟子でラヴェルの先生であり、パリ音楽院の教授・院長としてフランス音楽の独特な世界を大きく方向づけた偉大な作曲家です。

自身の父の死を期に作曲されたフォーレの「死者のための鎮魂曲」は、教会のオルガニスト・合唱長としてグレゴリオ聖歌に発する古今の様々な教会音楽に精通していたにもかかわらず、歌詞〈典礼文〉や形式が通常のレクイエムから外れていたために、カトリック儀式に反するとして教会での演奏を拒否された事があったそうです。しかしながら、それこそがフォーレの人間性と深い信仰心の自然な発露であり、このレクイエムが私たち日本人の心にも深く染み入る理由の一つでしょう。指揮者である私を含め非キリスト教者が多数を占める早春の会合唱団が、迷いなく各自の心からの祈りの歌として演奏できる理由は、正にそこにあります。

初めから終わりまで全てが比類なく美しく、全幅の神への信頼に満ち、怒りの日は恐怖の鉄槌ではなく慄く心に焦点を置き、地獄の場面でさえ死者を優しくいたわる切実な祈りであり、死への恐れではなく、永遠の安息と平安へのひたすらな祈りとして歌われます。それは、愛する父母の安らかな死を願う思いでしょう。そしてレクイエムであるにも関わらず、生きることへの肯定と世界への信頼のメッセージとして、私の心に響くのです。

P.S. 私が目黒高校1年の時、織田先生と先輩たちが、フォーレのレクイエムについて熱く語るのを傍らで聞き、アルバイトをして初めて買ったLPがクリュイタンス指揮のフォーレ・レクイエムなのです。あれから50年近い年月が私たちを磨き、汚してきました。その時間の分、心のひだが豊かに増えたような気がします。昨年5月に続き、再びこの曲を早春の会合唱団と共に深め演奏できることは、大きな幸せです。

### 『方舟』

非常に多くの合唱曲を作曲してきた木下牧子氏の合唱デビュー作がこの「方舟」で、芸大大学院在学中1978年の力作です。4つの詩は、その前年に出版された大岡信詩集の中の「方舟・初期詩篇(1947～)」に収められています。まだ16才だった大岡信のナイーブな感性に、22才の若いエネルギーが注ぎ込まれた名曲です。

詩は、4つそれぞれの様式で書かれ、暗喩に満ちて、様々な解釈を呼ぶ謎の問いかけの連続ですが、地球規模の兵器大戦と本土空襲の荒廃から間もない時代に、世界の断面を

見つめた若者の心に思いを馳せざるをえません。私には、「喪失とそれに続く模索」が4曲に貫かれている主題のように思えます。作詩から70年後の今も全く色あせずに、新たな現在形で生きている言葉たちが、木下牧子の和音と旋律で私たちに詰め寄ります。

「I 足元の砂は崩れ、失われた水晶宮の夢が今日の僕等を泣かせ、明日の望みも空しく、せめてひととき緑の夢の笛を吹く・・・」  
「II 私は寂しい空を渡る木馬、誰か私を撫でておくれ、心を繋いでおくれ・・・」  
「III 西の陽が黒く落ち、船の傾きは愁いをさそい、心開かぬまま慕い続け・・・」  
「IV 満天の星が地球から去ってゆく、灯火は絶え地球に血の帯、憎悪、ここが僕らの故郷なのか？大切なものさえ見失いかけて・・・」

とくに、IとIVの対が、世界の巨大な流れに抗う切実な問いかけとなり、演奏を躊躇するほどの悲痛さが立ち上がってくるのです。

しかしそうは言っても、平均年齢65才？の私たちが取り組むには超難関すぎました。かなりの練習時間を4分半くらいの5/4拍子の1曲(IV方舟)に費やし、悪戦苦闘しながら今日の本番を迎えました。この曲本来の悲痛さをどこまで歌いだせるかチャレンジです。

## 『 皇帝円舞曲 ～手に手をとって～ 』

初めの方に重々しいプログラムが続いたので、最後は楽しく華やかに終わらしましょう。高校時代から歌ってきて、早春の会合唱団の定番とも言えるウィンナワルツ。長年、頭の中で温めてきた玉置版「皇帝円舞曲」がやっと実現しました。

本来はオーケストラだけのワルツで、豊かな表情と堂々とした力強さを兼ね備えた名曲です。原曲の雰囲気を生かすべく、オケスコアから合唱譜を起こしましたが、ゼロからスタートの「歌詞」は大苦勞。半年以上に亘ってあれやこれやと変遷を重ねてようやく確定版に至りました。西川さん、ご協力ありがとうございました。歌詞を乗せるにあたって最も重視したのは、フレーズごとの旋律表情と言葉と情景が一致すること。そして全体が音楽の流れに合った物語となり、且つ歌うに必要な共感とリアリティを持てること。

1889年、ベルリン「王様のホール」柿落として、ドイツ皇帝とオーストリア皇帝の親善を祝して「手に手をとって」の題名で100人超えの大オケで初演され大好評。翌年のピアノ譜出版時に、より格調高く「皇帝円舞曲」と改題されました。では、皆で手を取りあって王様と共に幸せな明日を拓く、というファンタジーコーラス版をお楽しみください。

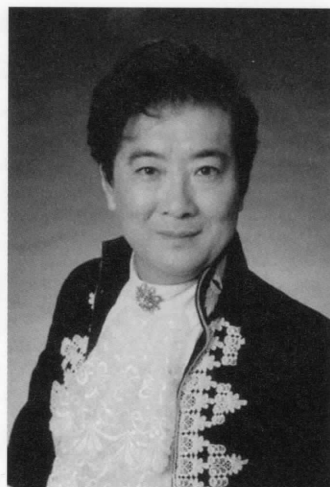


玉置清明

東京芸大声楽科卒業。小2より8年間、NHK東京放送児童劇団で活動し、表現の基礎を学ぶ。目黒高校音楽部で精神の奥深くを揺さぶる何物かの存在を知り、クラシック音楽の世界にのめり込む。高校の音楽教諭として学内外でオーケストラからJAZZそして絵画まで幅広い音楽・美術活動を展開し、文部科学大臣優秀教員表彰、アートアカデミージャパンなど多くの個人表彰をうける。神奈川県立教育センターオーケストラ講師、秦野市民交響楽団指揮者等を歴任。現在、早春の会合唱団、秦野女声コール指揮者、秦野市文化会館事業協会理事、秦野美術協会会員。

安藤由布樹

奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第一位受賞。国際芸術連盟作曲賞受賞。2015年、リトアニア政府より文化功労賞を授与されたほか、リトアニア国立劇場、リトアニア小児がん救済基金協会、リトアニアユダヤ人協会より表彰を受けた。都立駒場高校在学中に、織田久男先生の徹底した指導を受けたことが、生涯に渡っての音楽活動の源であり、また指標となった。日本作曲家協議会会員、日本合唱指揮者協会会員、国際芸術連盟作曲家会員、ポーランド日本友好協会虹の会日本支部長、日本リトアニア友好協会理事、神田外語大学演劇学科講師。



仲谷智子

都立目黒高校卒（音楽部6期）。武蔵野音大ピアノ科卒。久富綾子、澤田紀子に師事。ピアノ教室主宰。早春の会合唱団創団時より伴奏を務める。市民劇でのピアノ演奏、歌の会の企画、伴奏など在住の船橋市に於いて音楽活動を続けている。



## 米倉 邦子

都立目黒高校卒（音楽部 7 期）。国立音大ピアノ科卒。

横田和子、故田中希代子、霧生トシ子の各氏に師事。

第 20 回ワイマール国際音楽セミナーにて、A. ウェーバージンケ氏に、志賀国際音楽祭にて P. フォイヒトベンガー氏に師事。98 年内幸町ホールでリサイタルを開催。デュオや室内楽にも意欲的に取り組んでいる。

### 早春の会合唱団プロフィール

- 1993年 3月 都立目黒高校の旧音楽部の卒業生を母体として発足  
指揮者:松田匡史 伴奏者:仲谷智子
- 10月 第39回目黒区合唱祭に参加、以降毎年参加
- 1994年 11月 第36回都民合唱コンクール(東京文化会館)小ホール部門第一位
- 1996年 10月 第38回都民合唱コンクール(東京文化会館)小ホール部門第一位
- 1999年 8月 指揮者:井上実
- 2000年 6月 第1回演奏会(こまばエミナース)
- 2001年 2月 指揮者:玉置清明
- 2002年 7月 第2回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2004年 9月 第3回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2005年 1月 新実徳英作品展に参加
- 2006年 9月 第4回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2007年 3月 高田三郎作品展に参加
- 2008年 4月 指揮者:浦尾画三
- 2009年 6月 指揮者:安藤由布樹
- 2010年 4月 指揮者:玉置清明
- 2010年 7月 第66回東京都合唱祭に参加
- 2012年 3月 木下牧子作品展に参加
- 2012年 5月 第5回演奏会(東京オペラシティ リサイタルホール)
- 2014年 5月 第6回演奏会(めぐろパーシモンホール大ホール)
- 2015年 5月 国際芸術連盟主催のフォーレ生誕記念コンサート

